

受賞名：国務大臣・国家公安委員会委員長賞

タイトル：「相棒」は公用携帯

氏名：栗原 萌誇

小学校名：群馬県 国立群馬大学共同教育学部附属小学校 六年

私の父は警察官でした。この春に、定年退職を迎えました。父は、家では仕事の話を中心にしません。それどころか、私が幼い頃に何の仕事をしているのかと尋ねた時には、「俺は、ファッションデザイナー、ブランド名、『森栗恵』だ。」と言っていたので、真に受けた私は、低学年の頃までは信じてしまいました。後で母から「超有名デザイナーの森英恵さんを、もじっている。」と聞かされました。

さて、こんな風にひょうきんな父ですが、警察官であった時には、いつも一緒にいる、「相棒」がいました。それは公用携帯という、警察の公務を行う際に使う携帯電話機です。

その名称は重々しい感じですが、ネクストラップの先に取り付けられた、黄土色のガラケーです。父が出かける時は、ネクストラップを首に掛け、シャツの胸ポケットに公用携帯を入れておきます。また、父が就寝する時には、枕のすぐ左横にそれを置いて眠ります。それは、時々、夜泣きします。すると父は「よしよし。」とあやしながら、小声で何かを話し掛けて、深夜の世界に出掛けていきます。前から楽しみにしていたテーマパークに着いて、家族で休日を満喫している時に、それがぐずり出したら、さあ大変です。

「わかった。わかった。」とあやした後で、私たちに、「すまん、帰りは電車で帰ってくれ。」と言ったかと思うと、一人、車で帰ってしまいます。そんなことから、私は公用携帯というものが嫌いでした。それが鳴ると、家族のせっかくの予定が、狂ってしまうからです。高学年になり、父に「なぜ夜でも休みの日でも、公用携帯が鳴ると仕事に行くのか。」と聞いてみましたが、父が困った様な顔をしてしまったので、それからは触れないようにしました。

私は交番や授業、そして巡回連絡で接してくれた警察官の仕事に憧れを抱き、自分でも、警察官の仕事内容を調べました。そして「世のため、人のために尽くす仕事」であることがわかりました。父から「昔、水と治安はタダと言われた時代があった。」と聞きました。私は、何もせずに治安は守れないと思います。

大きな事件や事故があると真っ先に警察署に駆けつけて、集まった警察官が協力し合っで迅速に捜査するからこそ、事件等が解決し、当たり前のように感じてしまう「平和な暮らし」が守られていると思います。世の中の喝采を浴びなくても、全国で黙々と働く警察官がいることを、忘れないで欲しいと思います。

今年の三月に、大きな花束を抱えるように持って帰宅した父は、この日、三十八年間の警察官人生を終えました。ネクストラップで父の首に掛けられて、いつも胸ポケットにちょこんと座っていた「相棒」の姿は、今はもうありません。いつか、父に聞いてみたいと思います。「『相棒』がいなくなって、寂しいですか、お父さん。」